

# コーリヤ愛のプラハ

“KOLYA”

ZDENEK SVERAK

ANDREJ CHALIMON

LIBUSE SAFRANKOVA

ONDREJ VETCHY

STELLA ZAZVORKOVA

PRODUCED BY  
ERIC ABRAHAM

DIRECTED BY  
JAN SVERAK

WRITTEN BY  
ZDENEK SVERAK

DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY  
VLADIMIR SMUTNY

MUSIC BY  
ONDREJ SOUKUP

ORIGINAL STORY  
PAVEL TAUSSIG

PRODUCTION DESIGNER  
MILOS J. KOHOUT

心の翼を照らす光



'97ゴールデン・グローブ賞外国語映画賞

'97アカデミー賞外国語映画賞ノミネート

'96東京国際映画祭グランプリ、最優秀脚本賞

# コーリヤ愛のプラハ "KOLYA"

“社会主义國のゲータラ” フランティ・ロウカは55才で独身。職業はチェリストである。

かつてはチェコ・フィルの首席奏者まで務めたほどの実力者だが、今は葬儀の際の追悼歌の伴奏やらなにやらで喰いつなぐ身に落ちぶれていた。

なぜだって。いやなにたいしたことじゃない。楽団のマネージャーの奥方とちょっと“親密”になりすぎたくらいのことだったのだ。

ロウカにすればなにほどのことないのだ。独身だし、追悼歌を唄うクララは亭主持ちながらいつだってベッドをともにしてくれるし、

別段、今日のパンに困るわけでもない。ロウカはこんな“社会主义”も悪くないと思っていた。ただ、毎日大きなチエロの移動には往生していた。

なにしろ車がないのでいつも電車なのだ。彼の望みはただ一つ。その車トラバントを買う金が欲しかった。……。

ベルリンの壁崩壊の前年、1988年、そろそろ、民主化要求の激しくなってきたチェコの首都プラハを舞台に、気ままな独り暮らしを楽しむ男と、ひょんなことから彼が関わっていく5才の少年コーリヤとの牧歌的な交流をエキゾチズムたっぷりと、繊細に美しく描き出す感動作「コーリヤ愛のプラハ」。

1996年秋に行なわれた東京国際映画祭では「満場一致」(審査委員長シルベルマン氏のスピーチ)でグランプリに選出され、会場を大きな感動で包んだ。

97年には1月にハリウッドで行なわれる「ゴールデングローブ賞」の最優秀外国語映画賞に選出され、「秀作」の誉れは決定的になった。

激動するいまの世の中で、プラハから発せられた心暖まるヒューマンなドラマが、世界中に届きつつあるといっていいだろう。

さて、車が欲しいロウカに耳寄りな話がもち掛けられる。持ってきたのは若い友人のプロスだ。ちょっと危ないことでも稼いでいる子沢山の男。

モスクワから来る女がいる。彼女がチエコの身分証明書を欲しがっていて、その取得のためにロウカに偽装結婚してくれないかというのだ。

礼金は4万コルナだという。いちどはきっぱり断ったロウカだが結局“金に転んで”引き受けてしまう。

やがて女はさっさと西独へ通走し、ロウカの手許にはとんでもないお土産が残された。5才の息子コーリヤその人であった……。

実は映画はここから佳境を迎える。もうほとんど“大物俳優”と呼んでいいくらいのロシア人の坊やアンドレイ・ハリモンの演ずるコーリヤに観客のすべてが屈服することになる。チエコの英雄的名優ズディニエク・スピエラーカもほとんどこの坊やにはもうなすすべがないといった格好だ。

ヤレヤレ、参ったナと思っていたロウカが仕方なしにコーリヤの面倒を見始めると、2人の間にそれぞれ暖かい感情が通いあっていく。

ロウカには“父”という以上に人間的な崇高な気持ちが育ち、コーリヤにはロウカへの強い信頼の意志が確固たるものになっていく。

このプロセスを、映画は美しく、ユーモラスに、やわらかく描いていて静かな感動を生み出していく。

監督は32才のヤン・スピエラーカ。脚本はその父ズディニエク。彼は同時に主役のロウカを味わい深く演ずる。

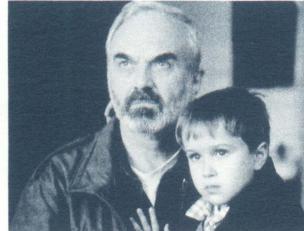
ヤンはチエコ映画界期待の若手で、日本公開は96年に「アキュームレーター1」というSFがある。

ズディニエクはチエコでは有名な俳優で、舞台、映画、テレビと活躍。小説も書く才人である。親子揃って96年、東京国際映画祭に来日した。

プロデューサーはイギリス人のエリック・アブラハム。世界中へのセールスにも凄腕を発揮した。

コーリヤのアンドレイ・ハリモンはモスクワのオーディションで約700人くらいの子どものなかから選出された。

子どもの持つ天与のあらゆる表情をどうぞ堪能頂きたい。(上映時間1時間45分)



「この映画はロシアの5歳の少年コーリヤを通して、人間の誇りに目覚める物語だ。

可愛らしい少年の無垢な瞳、無邪気な行動そして純度の高い感性などが、画面の全般に描かれていて飽きることがない。

コーリヤを取り囲む人間関係は、まさに旧ソ連とチエコが置かれた歴史と現状の投影でもあるかのよう興味深い。

筋を追うだけではない原作・脚本の深みが、この映画の個性であり魅力になっている。

物語は尻上がりに高揚していく。父ズディニエク・スピエラーカの脚本と主演、その息子ヤンの演出の二人三脚は、さすがに充実している。

人間としての誇り、本当の愛、芸術の真価とは何かを、淡々とした流れの中で深く問いかけてくる作品だ。」

大石芳野 フォトジャーナリスト

ズディニエク・スピエラーカ / アンドレイ・ハリモン  
リブシェ・シャフランコヴァー / オンドジェイ・ヴェトヒ  
ステラ・ザーズヴォルコヴァー  
プロデューサー：エリック・アブラハム  
監督：ヤン・スピエラーカ 脚本：ズディニエク・スピエラーカ  
撮影：ウラジミール・スマットニー 音楽：オンドジェイ・ソウクップ  
原案：パヴェル・タウセック 美術：ミロシュ・コホウト  
日本語字幕翻訳：吉岡芳子 チェコ語監修：伊川久美子  
宣伝デザイン・イラスト：渡邊良重 予告篇製作：S·E·R

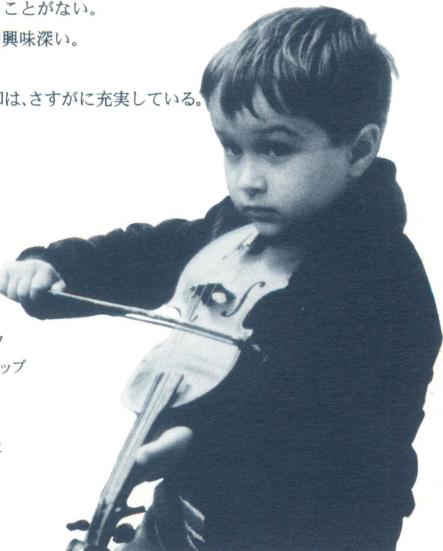
'97アカデミー賞外国語映画賞 受賞！

'97ゴールデン・グローブ賞外国語映画賞

'96東京国際映画祭グランプリおよび脚本賞 各賞受賞

1996年 チェコ・イギリス・フランス合作

配給 シネマテン 原作 集英社



京都映画祭  
KYOTO FILM FESTIVAL  
('97年12月6日～14日)

イベント上映作品

11月22日(土)よりロードショー

特別鑑賞券発売中！一般 1500円(当日1700円の処)

・シニア・身障者の方は1000円でご入場いただけます。

●入替制

(途中からのご入場はご遠慮下さい。)

KYOTO  
朝日シネマ

河原町三条朝日会館4F TEL(255)6760